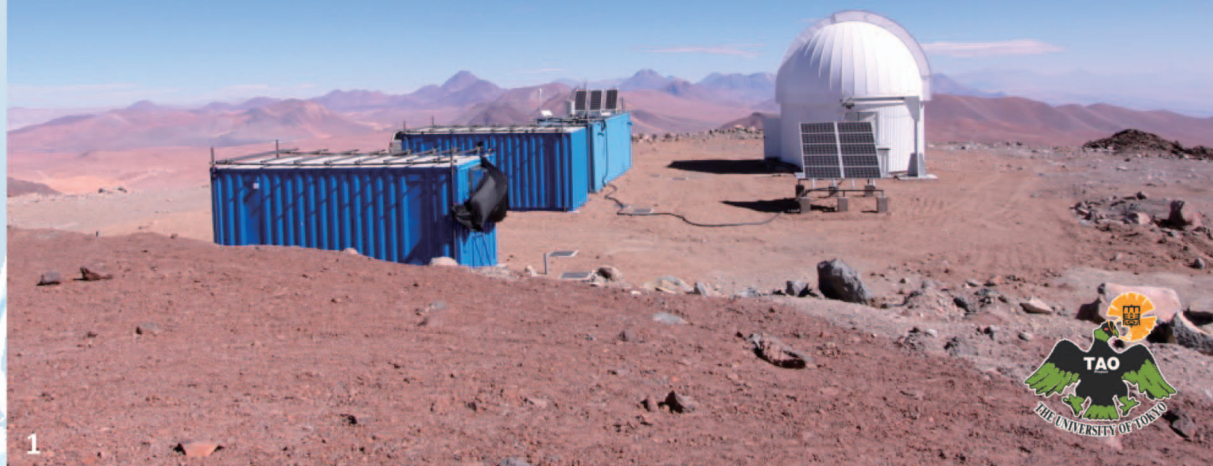


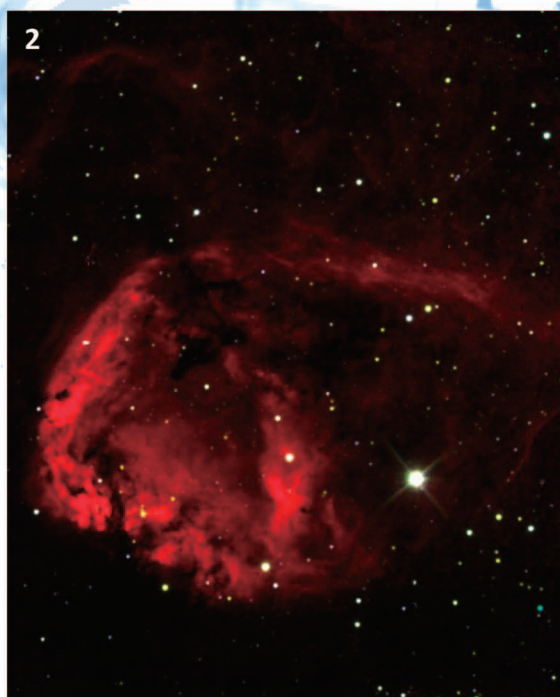
東京大学アタカマ天文台

TAO

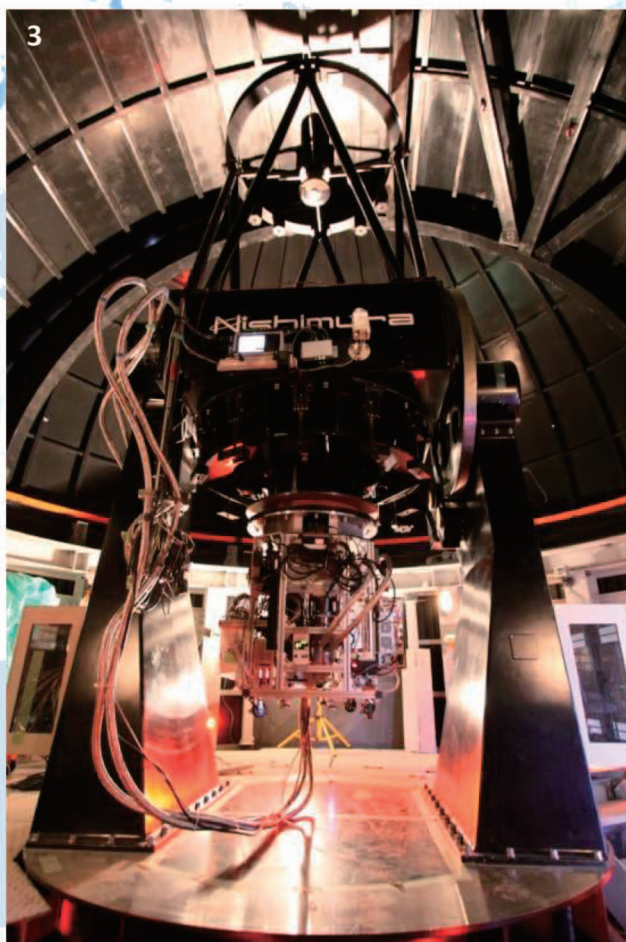
The University of Tokyo Atacama Observatory



1



2

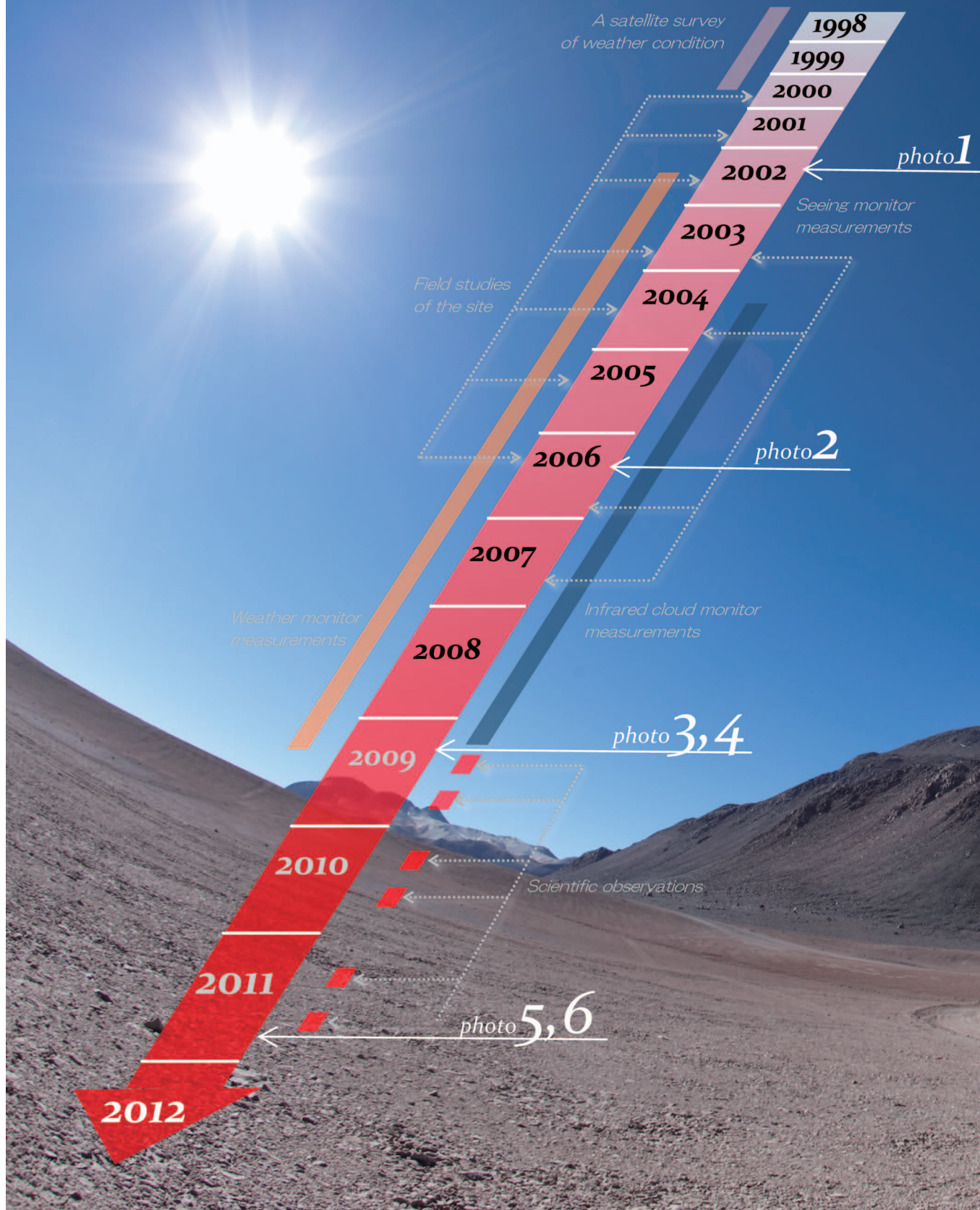


3

東京大学天文学教育研究センターは、南米チリ北部のアタカマ砂漠にあるチャナントール山頂に、口径1mのminiTAO望遠鏡を設置し観測を実施している。同時に、口径6.5mのTAO望遠鏡に向けた準備も進めている。（詳細は今月、来月号の「TAO特集記事」参照）

1. 東京大学アタカマ天文台TAOの全景。標高は5640mで世界最高標高の天文台となる。右側に見えるのがminiTAO望遠鏡のドーム。左側は観測用のコンテナ群。 2. 天の川銀河の泡構造N101。miniTAO望遠鏡に搭載した近赤外線カメラANIRで撮影。 3. mminiTAO望遠鏡。近赤外線カメラANIRと中間赤外線カメラMAX38で観測可能。写真ではANIRが搭載されている。

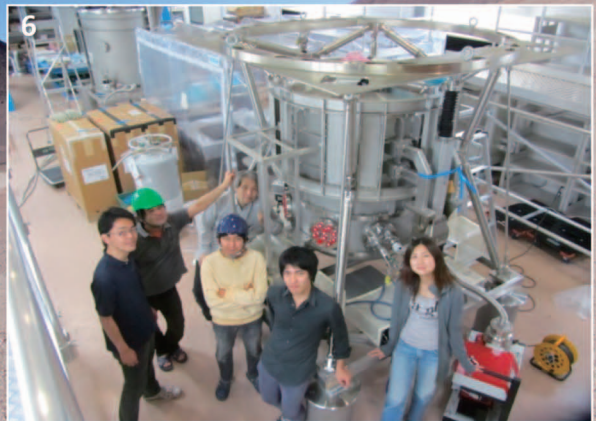
History of TAO Project





TAO計画の構想から現在までの歴史。背景は、TAOサイトのあるチャナントール山の全景写真。

1. 2002年、TAOメンバーがチャナントール山頂に徒歩で初登頂。そのときの写真は、チリで発行された「miniTAO完成記念切手」の小型シートに使われた。 2. 2006年に完成した山頂へのアクセス道路。 3. 2009年、miniTAOが完成。酸素の薄い過酷な環境の中、日本とチリの作業員が協力して建設作業を行った。 4. 2009年、近赤外線カメラANIRと中間赤外線カメラMAX38を搭載し、ファーストライト観測を実施。写真はANIRと観測メンバー。 5. 2011年に、麓の町サンベドロ・デ・アタカマからの遠隔観測を開始。その時の観測の様子。 6. 口径6.5mのTAO望遠鏡に搭載予定の近赤外撮像分光装置SWIMSと中間赤外撮像分光装置MIMIZUKUの製作も進む。写真はMIMIZUKUと開発メンバー。



東大理学部
イメージコンテスト
2012
最優秀賞



1.
遠隔観測用全天カメラのテスト画像。サンペドロ・デ・アタカマの山麓施設にて撮影。街灯に照らされた山麓施設の建物と、樹木の向こうに横たわる天の川銀河。中心付近に南十字星、下側に大マゼラン雲が見える。「東京大学理学部イメージコンテスト 2012」にて最優秀賞を受賞。

2.
天の川銀河の中心領域の画像。
可視光画像 (左下, Digitized Sky Survey) では中心には何も見えないが, miniTAOで撮った近赤外線水素輝線画像 (中央下) や中間赤外線画像 (右下) では中心部分の構造が見えている。

